

臨床実習

【Bed Side Learning】

担当責任者 診療参加型臨床実習小委員会委員長

ねらい

将来産業医あるいは臨床医として活躍するために、早期から実際の医療現場を体験し、医師としてふさわしい豊かな人間性を身につけ、さらにその職責を全うするために必要な態度、職業的な知識、考え方を身につける。

将来医師としてふさわしい態度で患者に接し、正しい方法によって病歴を聴取、系統的な診察を行うとともに、患者のもつ身体的、精神的および社会的問題を正しく把握し、そのおのおのに対して適切な処置を指示することができるようになるための基本的知識、技能および態度を身につける。

学修目標

1. 疾病を把握するための、病因や構造と機能の異常について考えることができる。(Ⅱ-5)
2. 診断学の基本概念を把握し、患者の現状の把握に必要な検査を考えることができる。(Ⅱ-6, IV-4)
3. 検査の結果を分析し、適切な治療法を検討することができる。(Ⅱ-6, IV-5)
4. 診断学の基本概念を把握し、患者へのアプローチの仕方、正しい病歴のとり方、診察の正しい仕方を身につける。(Ⅱ-6, IV-1, IV-2, IV-4, VI-1)
5. 完全な病歴を作成し、patient profile を作るとともに patient problem を指摘することができる。(IV-1, IV-4)
6. 臨床上必要な検査の基本的な手技を身につけ、その所見の臨床的意義を指摘することができる。(Ⅱ-6)
7. 医療チームの中にあつてとるべき行動の基本を身につける。(VI-3, VI-4, VI-5)
8. 病名の診断、患者の現状の把握に必要な検査を指示し、かつ得られた結果を分析することができる。(Ⅱ-6, IV-4)
9. 患者の病名を確定し、適切な治療を指示することができる。(Ⅱ-6)
10. 患者の社会的状況を理解し、助言を与えることができる。(VI-1, VI-2)

事前事後学習の方法

指導医の指示に従い、参考書ならびに論文で復習をすること。

成績評価方法・基準

1. 疾病の理解について口頭試問や実習レポートなど(各指導医による)の内容を評価の対象とする。
2. 学習能力だけでなく出欠状況(欠席は原則認めない)および実習態度などを網羅し総合的に判断する。
3. ローテーションした全ての講座で合格しなければならない。

○ 参考資料

教育要項(別冊) 臨床実習の手引 産業医科大学

○ 教科書

3年次および4年次の各臨床科目の「教科書」欄を参照

○ 参考書

診療参加型臨床実習実施ガイドライン 医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)

3年次および4年次の各臨床科目の「参考書」欄を参照

実習期間およびローテーション

教育要項(別冊) 臨床実習の手引「臨床実習 年次計画表」を参照のこと

実習の内容

教育要項(別冊) 臨床実習の手引「実習計画の概要・臨床実習計画表」を参照のこと